

Title	〇社における脱成熟化のための組織マネジメント-向上心旺盛な組織体への変革-
Sub Title	
Author	大崎将男(Oosaki, Masao) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1414号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1414">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1414</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	小野ゼミ	学籍番号	89728163	氏名	大崎将男
(論文題名)					
<h2>〇社における脱成熟化のための組織マネジメント ～ 向上心旺盛な組織体への変革 ～</h2>					
(内容の要旨)					
<p>本論文では、医療衛生材料用品を製造・販売する中小企業「〇社」を研究対象として、その〇社を脱成熟化させるために必要な組織マネジメントについて事例研究を行っている。中でも特に、いかにしてワンマン型経営を打破し、より多くの組織構成員が向上心を持って問題を解決し続けるようになるかに焦点を当てている。</p>					
<p>基本的な視点としては、まず、川瀬武志氏の主張するライン中心型の問題解決方法が〇社に適していると考え、同氏が指摘する4つの必要条件を実現していくことを柱としている。また、これを実行していく手順としては、同氏が主張するライン・スタッフ協力形態の変遷、E.M.ロジャース氏が主張する革新の採用過程、伊丹敬之・加護野忠男氏が主張するパラダイム転換のパターンを考慮に入れ、たどるべき組織変革の経時的な流れを設定している。すなわち、上述の満たすべき「必要条件」と「手順」という2つの視点を組み合わせて2元マトリックスにしたものが、本論文の枠組みである。</p>					
<p>以上のような見地から、他社事例も参考にしながら、〇社に求められる組織マネジメント上の諸方策を検討し、ダイナミックなアクションプランを立案している。さらに、これを実行する際に予想される課題を抽出し、それに対する対応策も提言している。</p>					
<p>また、〇社で実際に実行され始めている変革実施例と、その効果についても触れている。</p>					
<p>これらの事例研究を行った結果、本論文の枠組みとして使った分析アプローチは、経営者がライン中心型へ組織変革するための行動計画を立案する上で、かなり有効な考え方であると判断される。</p>					